コバネコロギス
Metriogryllacris magnus

バッタ目
コロギス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長♂ 12 ～ 24mm、♀ 16 ～ 28mm。タテスジコバネコロギスに似るが、頭部から胸部は橙黄色で、黒い縦条はない。腹部は黄色いが、各節の後縁が黒く鮮やかな虎縞模様となる。成虫には極めて小さい翅がある。照葉樹の樹上に生息し、夜間出歩いて他の昆虫などを捕食する。成虫で越冬し、年 1 化。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 台湾

【伊豆諸島における生息環境】
照葉樹の樹上から採集されているが、生息環境の詳細は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
照葉樹林の伐採による消失や面積の縮小、それに伴う昆虫の減少が生存に対する脅威となっていると思われる。最近までタテスジコバネコロギスが本種と混同されてきた経緯があるため、改めて確認と調査を行う必要がある。

【関連文献】
渡辺泰明・相馬州彦 , 1972; 江崎逸郎ら , 2009.

（執筆者 : 高橋耕司）

タテスジコバネコロギス
Metriogryllacris fasciatus

バッタ目
コロギス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 25mm。コバネコロギスに似るが、頭部から前胸背板にかけて黒い縦条がある。♀の第 8 腹節腹板にある突起が直立して長く発達する。生態については不明な点が多いが、概ねコバネコロギスと同様と推測される。

【分布の概要】
伊豆諸島、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
照葉樹の樹上から採集されているので、そのような場所に生息すると思われるが、比較的最近記載された種なので知見に乏しく、生息環境の詳細は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
照葉樹林の伐採による消失や面積の縮小、それに伴う昆虫の減少が生存に対する脅威となっていると思われる。

【関連文献】
Ichikawa, A., 2001; 村井貴史・伊藤ふくお , 2011.

（執筆者 : 高橋耕司）

ヒサゴクサキリ
Palaeoagraecia lutea

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長 41 ～ 52mm。顔面に特徴的な緑色の隈取り模様がある。大顎は黒い。頭胸部背面に瓢箪形の紋がある。産卵器は幅広い。珍しい種として知られていたが、食草がメダケやマダケの若芽と判明してからは各地で確認されるようになった。複数の個体がコロニーを形成している。夜にシチッ…と 1 ～ 2 声、時には 3 声チチチ…と不規則な間隔をあけて鳴く。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
畑の脇などにメダケやマダケが植えられているようなかなり人の手が加わった環境で確認されているが、本来の自然状態での生息環境については不明な点が多い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
わずかな規模のメダケやマダケに依存していると考えられるため、伐採や整地が行われると短期間で容易に生息場所が失われてしまう危険性がある。

【関連文献】
和田一郎 , 1991; 日本直翅学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

カヤキリ
Pseudorhynchus japonicus

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 63 ～ 67mm。体は太く、緑色ないし褐色。顔面は黄色味がかる。頭頂から胸部の両側面に黄白色の細条があり、前翅発音器周辺まで延びる。触角鞭節下面は黒色。産卵器上片の上面は先端に向かって下側に湾曲する。オギ、ススキなど高茎イネ科草地に生息し、茎や穂を摂食する。卵越冬、年 1 化で夏に羽化し、♂が夕方から夜間にかけてジャーー…と大きな声で鳴く。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生息環境】
高茎イネ科植物の草地で採集されているが、生息環境についての詳細な報告は少ない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
大型のイネ科植物が茂り、良さそうに見える環境であっても、全く生息していない場所の方が多い。本種の生存に必要な要因について詳細な調査を実施することが望まれる。

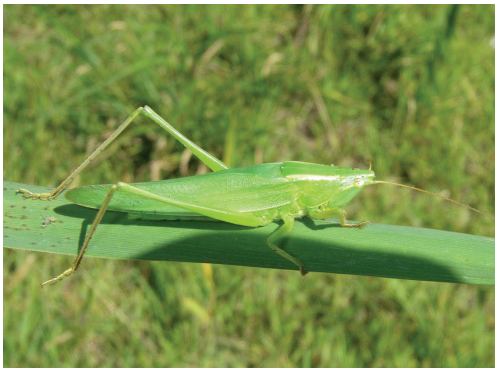
【関連文献】
山本和夫 , 1996; 東京都 , 2005.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

ヒメクサキリ
Ruspolia dubius

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 DD　環境省



【形態・生態】
体長 (翅端まで) ♂ 29 ～ 49mm、♀ 38 ～ 53mm。クサキリより頭頂の突出が強く、頭頂突起は本属中で最も細い。大顎は黄色。翅端は尖る。後脚腿節下縁の小棘は少ない。暖地の個体はクサキリより大型になる。年 1 化で夏に羽化する。鳴き声はジーー…という連続音であるが、時々ジッジッジッ…と短切音を出す。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島からシベリア (東部)

【伊豆諸島における生息環境】
本土では山地の丈の低い草地に普通にいる種だが、時に平地でも雑木林のアズマネザサなどに生息している場所がある。伊豆諸島での生息環境の詳細は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
少数の採集記録があるのみで詳細は不明である。採集された標本の確認とともに、さらなる調査を実施することが望まれる。

【関連文献】
山本裕 ,1997; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

ウスイロササキリ
Conocephalus chinensis

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長♂ 13 ～ 18mm、♀ 28 ～ 33mm。頭部は尖り、背面から見ると、頭頂部先端は触角柄節よりも著しく狭い。♂の尾肢は淡緑色。暖地では年 2 化し、初夏と秋に成虫が見られる。日中にシリシリシリ…またはツルルルル…と聞こえる声で長く鳴く。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 朝鮮半島、中国、ロシア

【伊豆諸島における生息環境】
低茎草地や荒地、湿地などに生息し、人為的なかく乱後に生じた草地にもよく進出する。本土ではホシササキリと共にササキリ類中でもっとも普通に見られる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
生息環境そのものはありふれているにもかかわらず、伊豆諸島ではホシササキリが優占し、本種が見られる場所はごく限られている。さらなる調査により、新たな産地の発見に努めるとともに、生息場所を重点的に保全することが望ましい。

【関連文献】
高橋耕司 , 1992; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

ササキリ
Conocephalus melas

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 12 ～ 17mm。体の側面は緑色で、複眼から前翅にかけて太い黒帯がある。後脚膝も黒い。後脚腿節下面に 2 ～ 3 本の小棘がある。年 1 化で夏に羽化し、11 月上旬ごろまで鳴いている。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、東南アジア

【伊豆諸島における生息環境】
本土では、樹林との結びつきが強く、林縁や竹やぶで普通に見られる。林床にアズマネザサが多い雑木林も多くに生息する。伊豆諸島での生息環境の詳細は不明だが、本土と同様であろうと推定される。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
わずかな採集例があるだけなので、詳細は不明である。樹林環境の減少が生存に対する脅威になると考えられる。

【関連文献】
大野正男 , 1994; 東京都 , 2005.

（執筆者 : 高橋耕司）

オナガササキリ
Conocephalus gladiatus

バッタ目
キリギリス科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 15 ～ 21mm。大型のササキリで、体も太い。♀の産卵器は極めて長くまっすぐで、28 ～ 32mm もある。年 1 化で夏～秋に成虫が見られる。ジリリ、ジリリ…またはシュリッ、シュリッ…と音節の区切りがはっきりした声で鳴く。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 朝鮮半島から中国 (東北部)

【伊豆諸島における生息環境】
本土では日当たりが良く草丈のやや高い草地に生息するが、伊豆諸島ではほとんど観察例がないので、生息環境の詳細は不明である。本土と同様であろうと推測される。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
分布や生息状況に不明な点が多いため、生息状況の把握が望まれる。

【関連文献】
東京都港湾局 (編), 1988; 山本和夫 , 1996.

（執筆者 : 高橋耕司）

ワンガタコバネササキリモドキ御蔵島亜種
Cosmetura mikuraensis mikuraensis

バッタ目
ササキリモドキ科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
体長♂ 9.5 ～ 9.7mm、♀ 7.8 ～ 7.9mm（産卵器を除く）。透明感のある鮮緑色で、背中に褐色の縦スジがある。♂の腹部第 10 節背板は、前胸背板よりも幅広く、光沢がある。肛上板は淡褐色で、先端は椀を伏せたような形に丸く盛り上がり、後縁中央に深い窪みがある。伊豆諸島固有種で、島ごとに異なった 3 つの亜種が知られている。他のササキリモドキ類同様に年 1 化と思われる。

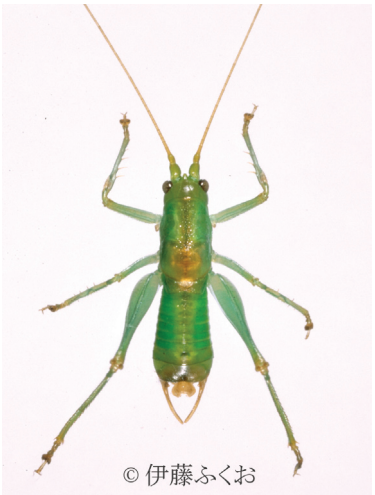
【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】
樹林性であり、林縁が主な生息場所となっている。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採が本種の生存に対する脅威である。また、たとえ樹林が残っていても、林縁や林床の草刈りなどの管理が過度に行われると、影響を受けると考えられる。

【関連文献】
加納康嗣・冨永修 , 1988; 加納康嗣ら , 1999.

（執筆者 : 高橋耕司）



ワンガタコバネササキリモドキ八丈島亜種
Cosmetura mikuraensis hachijyoensis

バッタ目
ササキリモドキ科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
体長 11 ～ 12mm。御蔵島亜種よりやや大きく、♂の尾肢基部内側の突起は小さく痕跡的となる点で区別される。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】
樹林性であり、林縁が主な生息場所となっている。マント群落や低木上で採集されている。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林と強く結びついた種なので、樹林の伐採が本種の生存に対する脅威である。また、樹林が残っていても、林縁や林床の草刈りなどの管理が過度に行われると、影響を受けると考えられる。

【関連文献】
加納康嗣・冨永修 , 1988; 加納康嗣ら , 1999.

（執筆者 : 高橋耕司）

ワンガタコバネササキリモドキ利島亜種
Cosmetura mikuraensis toshimaensis

バッタ目
ササキリモドキ科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
体長♂ 9.7mm、♀ 10.6mm。御蔵島亜種よりやや大きめ。♂の尾肢基部内側の突起は大きく、三角形に突出し、尾肢基部の幅と同じくらいの長さがある。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】
採集例がわずかしかなく、生息環境の詳細は不明だが、他の亜種同様、樹林性で、林縁が主な生息場所となっていると推定される。ツバキ果樹園の林床の下草の上でも採集されている。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採が本種の生存に対する脅威である。また、たとえ樹林が残っていても、林縁や林床の草刈りなどの管理が過度に行われると、影響を受けると考えられる。

【関連文献】
高橋耕司 , 1992; 加納康嗣ら , 1999.

（執筆者 : 高橋耕司）

クツワムシ
Mecopoda nipponensis

バッタ目
クツワムシ科

伊豆諸島 VU　環境省

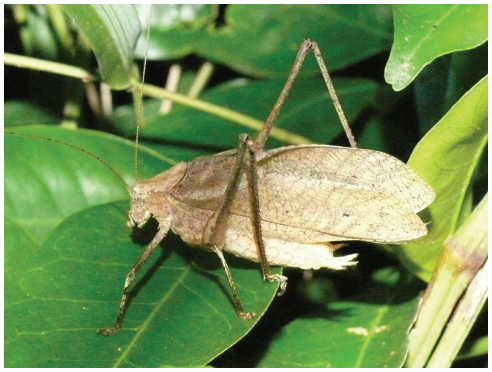
【形態・生態】
体長 50 ～ 53mm。緑色型と褐色型がある。前翅の幅が広く短いことからタイワンクツワムシと区別される。雑木林の林縁やクズなどが繁茂した藪に生息する。卵越冬、年 1 化で夏～秋に成虫が見られ、♂は夜間にガシャガシャ…と連続して鳴く。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
照葉樹林の下草や藪に生息する種で、伊豆諸島においても同様と推測される。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
近年、地域絶滅の例が増加している種である。樹林の伐採が本種の生存に対する脅威である。また、たとえ樹林が残されていても、マント群落や林床の草刈りなどの管理が過度に行われると、林床が明るく乾燥した状態となり、本種は生息できなくなってしまう。

【関連文献】
東京都環境保全局 , 1998; 日本直翅類学会 (編), 2006.



（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

タンボコオロギ
Modicogryllus siamensis

バッタ目
コオロギ科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長 13 ～ 16mm。複眼を結ぶ横帯以外、頭部はほぼ黒い。水田や明るい湿地にトンネルを掘って生息する。羽化後まもなくはよく飛翔し、乾性草地や市街地で見られることもある。♂はジッ、ジッ…と連続的に鳴く。幼虫越冬、年 1 ～ 2 化。成虫は春～夏に多く、秋も少数ながら出現する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 東南アジア

【伊豆諸島における生息環境】
本土と同様、湿地に生息すると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
伊豆諸島には湿地や湿った環境がもともと少ないので、典型的な湿地はもちろんのこと、局所的に存在する湿った草地を網羅的にリストアップし、積極的に保全していくことが望まれる。

【関連文献】
渡辺泰明 , 1963; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

クマコオロギ
Mitius minor

バッタ目
コオロギ科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長約 12mm。頭頂に横帯を欠き、全身黒いが腹面は黄褐色で脚は赤褐色。翅は短く飛翔できない。♂の前翅長は、頭部と胸部を合わせた長さとほぼ同一で、♀の前翅長は腹部の半分以下の長さ。明るい湿地に生息し、♂はチリッと一声ずつ間をおいて小さな声で鳴く。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
生息環境の詳細は不明であるが、本土と同様に湿った草地であると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
採集が困難な種であり、不明な点が多い。湿った草地の保全が重要であると考えられる。

【関連文献】
山本和夫 , 1996; 八丈ビジターセンター , 2007.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

ヒメコオロギ
Comidogryllus nipponensis

バッタ目
コオロギ科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 8 ～ 10mm。オカメコオロギ類に似るが、小型で♂♀ともに頭部が丸いことで区別される。左右複眼の後縁を結ぶ淡色帯があるように見える。♂の前翅は先端近くで最も幅広くなる。♀の前翅は短く、腹部の約半分が露出する。♂はリュ――…と鳴く。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬

【伊豆諸島における生息環境】
山道脇の薮、下草の茂る林床など、陰湿な場所の落葉下に生息している。草がよく茂った場所にいるので非常に発見しづらい。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
もともと局所的な分布をしている種なので、詳細な分布調査を行った上で、残されている生息地を保全することが望まれる。

【関連文献】
和田一郎 , 2001; 村井貴史・伊藤ふくお , 2011.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

クマスズムシ
Sclerogryllus punctatus

バッタ目
コオロギ科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 10 ～ 12mm。全身黒色で腿節の先端と脛節は赤褐色。触角は黒いが、中間部の数節が白い。前胸背板は点刻が発達し、前縁に比べて後縁は幅広い。♂の前翅は腹端に達するが、♀は達せず翅脈が盛り上がる。草地に生息するが、やや湿った場所を好み、林縁や果樹園でも見られる。♂はシュシュシュ…と鳴き始め、やがてリュ――…と非常に高い声で鳴き、キーーンとも聞こえる。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
本土では疎らな草地から密な草原まで、また畑の周辺や疎林の下草などでも普通に見られる。伊豆諸島においても生息環境は同様と思われる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
伊豆諸島ではもともと個体数が多くないと思われるが、詳細は不明である。良好に見える環境でも、全くいない場所の方が多い。

【関連文献】
東京都 , 2005; 村井貴史・伊藤ふくお , 2011.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

アカマツムシモドキ
Aphonoides rufescens

バッタ目
マツムシ科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長♂ 12.6 ～ 16.0mm。マツムシモドキに似るが、やや大きく赤味が強い。産卵器はやや短く、先端部は黒っぽい。7 ～ 10 月に成虫が見られる。人が近づくと、葉の裏側にまわって脚と触角を伸ばして伏せ、擬態姿勢をとる。

【分布の概要】
伊豆諸島、小笠原諸島、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
低地林の林縁の樹上で見られる種であるが、伊豆諸島での詳細な観察例はなく生息環境は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林に依存する種なので、樹林の伐採が生存に対する脅威である。本種が好む樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
渡辺泰明・相馬州彦 , 1972; 山本裕 , 1997.

（執筆者 : 高橋耕司）

カヤコオロギ
Euscyrtus japonicus

バッタ目
マツムシ科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
体長約 9mm。体は黄褐色で、頭部から前翅の背面は黒褐色で、その左右に黄白色の帯が一直線に入り、この淡色帯は複眼から腹部先端まで続く。前翅は短く、腹部の中間まで達しない。チガヤなどのイネ科草地に生息し、生息地では複数個体が見られることが多い。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生息環境】
生息環境の報告がなく、詳細は不明である。本土では産地は局所的で、各地で減少している。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
伊豆諸島からは近年の採集例はなく、再発見および詳細な調査が強く望まれる。

【関連文献】
Furukawa, H., 1938; 村井貴史・伊藤ふくお , 2011.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

ヤチスズ
Pteronemobius ohmachii

バッタ目
ヒバリモドキ科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長 8.0 ～ 8.5mm。体は茶褐色から黒褐色で光沢がある。後脛節背面外側の棘は 4 本。湿地に生息し、♂はジーーーィ、ジーーーィ…と後半を上げ調子にして鳴く。卵越冬、年 1 ～ 2 化で夏～秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
本土では、湿地や水田の畦などに生息する。伊豆諸島からの生息環境の詳細な報告はないが、本土と同様と考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
伊豆諸島では、湿地環境が極めて少なく貴重である。特に八丈島には湿地が存在し、伊豆諸島唯一の水田もある。湿地的環境の保全が望ましい。

【関連文献】
大野正男 , 1994; 八丈ビジターセンター , 2007.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

ヒメスズ
Pteronemobius nigrescens

バッタ目
ヒバリモドキ科

伊豆諸島 ✻　環境省

【形態・生態】
体長♂ 5.5 ～ 5.7mm、♀ 5.3 ～ 6.2mm。体は黒褐色で、前胸背板や前翅は光沢が強い。小顎鬚は末端 2 節が白い。後脚脛節背面の可動棘は 3 対。弱い声でジーィ、ジーィ…と鳴く。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島 ; 台湾

【伊豆諸島における生息環境】
照葉樹林の薄暗い林床で、落葉が溜まった地表に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採が生存に対する脅威である。もともと生息密度が高くないと考えられるため、ある程度まとまった面積の照葉樹林を保全することが望まれる。

【関連文献】
高橋耕司 , 1992; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

ヒゲシロスズ
Polionemobius flavoantennalis

バッタ目
ヒバリモドキ科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長約 6mm。黒褐色で光沢がある。触角は基部付近から白くなり、触角全体の約半分が白い。小顎肢の中間節が白く、先端は黒い。後脛節背面外側の棘は 3 本。平地から山地の林縁や果樹園の縁の草地に生息する。♂はフィリリリリリ…と鳴く。卵越冬、年 1 化で秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬、南西諸島 ; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生息環境】
樹林に接した草地などで採集されているが、同様に見える環境でも全くいない場所も多い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
畑作や果樹栽培などの農業や草刈りなどが、本種の好む草地を維持する結果につながっている場合もあると考えられる。それがなくなった場合に、本種が好む草地が減少してしまうことがあると推定される。開発などから草地を保全することが望ましい。

【関連文献】
高橋耕司 , 1992; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

イソカネタタキ
Ornebius bimaculatus

バッタ目
カネタタキ科

伊豆諸島 ✻ | 環境省

【形態・生態】
体長 10 ～ 15mm。カネタタキより大型で、後脚脛節には縞模様がない。後脚跗節第 3 節は淡色。♂の前翅に一対の黒点があるのが目立つ。♀の尾肢先端には白色部がある。チリチリチリ…と早いテンポで続けて鳴く。昼夜とも鳴き声が聞かれる。

【分布の概要】
伊豆諸島、小笠原諸島、本州、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、東南アジア

【伊豆諸島における生息環境】
海岸性であり、ハチジョウススキやハマユウ、トベラなどの茂みや葉の間にいる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
生息環境が陸地と海岸の間の狭い範囲に限られる傾向がある。このような立地は、海岸部での道路建設などにより開発されやすい。限られた生息環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
朝比奈正二郎・梅谷献二 , 1955; 日本直翅類学会 (編),2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

ハネナガヒシバッタ
Euparatettix insularis

バッタ目
ヒシバッタ科

伊豆諸島 DD | 環境省

【形態・生態】
前胸背板長 10 ～ 13mm。触角付着点上端は複眼下縁より少し上方に位置する。前胸背板にこまかい凹凸が多く、正中線隆起は途中で窪むが、前縁に達する。触角はあまり細くない。成虫で越冬し、年 2 化する。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】
本土では普通に見られる種で、水田や沼、川原などの湿った地表にいるが、しばしば畑などの乾いた場所でも見られる。伊豆諸島における生息環境の詳細は不明であるが、主要な生息環境は湿地であると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
現時点では不明な点が多いため、さらなる調査を実施することが望まれる。

【関連文献】
Shiraki, T., 1907; 日本直翅類学会 (編),2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

コバネヒシバッタ
Formosatettix larvatus

バッタ目
ヒシバッタ科

伊豆諸島 DD | 環境省

【形態・生態】
前胸背板長♂ 8.6 ～ 8.8mm、♀ 9.4 ～ 9.9mm。前胸背板はなめらかに盛り上がり、正中線隆起は窪まない。前胸背板側面の第 2 の切れ込み (ノッチ) はない。ただし、他のヒシバッタ類も幼虫時はこれがないので、同定には注意が必要である。年 1 化で、秋に羽化して成虫で越冬、翌春活発に活動する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、対馬

【伊豆諸島における生息環境】
本土では樹林の林床でよく見られる種であり、落葉を食べている。雑木林や照葉樹林、スギ人工林にも生息している。伊豆諸島ではわずかな報告があるのみで、生息環境の詳細は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
分布の状況や生息環境などに不明な点が多い。採集された標本の確認とともに、さらなる調査を実施することが望ましい。

【関連文献】
山本和夫 , 1996 ；　日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

ハネナガイナゴ
Oxya japonica

バッタ目
バッタ科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長 (翅端まで) ♂ 20 ～ 38mm、♀ 23 ～ 47mm。体は細めで強い光沢がある。前翅は後脚膝を越える長さがあり、先端部が幅広くなるのが特徴。♀の腹部第 3 節背板後下角に 1 本の棘突起がある。年 1 化で夏に成虫になるが、羽化期はコバネイナゴよりやや早い。よく飛ぶ。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島 ; 東南アジア、南アジア

【伊豆諸島における生息環境】
詳細は不明である。本土では水田とその周辺や、湿性草地に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
伊豆諸島における分布や生態など、保全する上での基礎的な知見が不足しているので、さらなる調査が必要である。生息環境が本土と同様ならば、湿性草地の保全が重要である。湿性草地は、伊豆諸島では極めて少なく、貴重な環境である。

【関連文献】
Furukawa, H., 1962; 大野正男 , 1994.

（執筆者 : 高橋耕司）

ヒナバッタ
Glyptobothrus maritimus

バッタ目
バッタ科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
体長♂ 19 ～ 23mm、♀ 25 ～ 30mm。前胸背の 1 対の「く」の字形の線は明瞭で X 字状となり、それに伴う側稜も完全。前翅前縁は広がらない。後翅は透明。腹部腹面は黄色で先端は赤味がかる。ジュルジュルジュル…とやや濁って聞こえる声で鳴く。多化性で、成虫は 5 ～ 12 月ごろまで見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、対馬 ; 朝鮮半島、ロシア (沿海州)

【伊豆諸島における生息環境】
不明である。本土では日当たりの良い草地や荒地によく見られる種である。伊豆諸島にも、そのような環境はあちこちにあるにもかかわらず、今日まで本種の採集例は極めて少ない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
詳細な生息状況が不明なため、生息状況の把握を行うことが望まれる。

【関連文献】
渡辺泰明・相馬州彦 , 1972; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 高橋耕司）

クルマバッタ
Gastrimargus marmoratus

バッタ目
バッタ科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
体長 (翅端まで) ♂ 35 ～ 45mm、♀ 52 ～ 65mm。緑色型と褐色型がある。黒帯が複眼から斜め下に伸びる。前胸背板は中縦隆起が発達して盛り上がり、後縁が鋭く突出する。前翅は基半部が不透明で黒褐色、その外側に白帯がある。後翅は基半部が黄色で、その外側に黒褐色帯がある。イネ科草本を摂食する。卵越冬、年 1 化で夏～秋に成虫が見られる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、朝鮮半島、東南アジア、カシミール

【伊豆諸島における生息環境】
生息環境について詳細な報告がなく、不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
開発による草地の消失が、生存に対する脅威である。特に伊豆諸島では、草地の面積が狭く、また、もともと個体群の規模が小さいため、わずかな開発行為で大きな影響を与える可能性がある。

【関連文献】
正木十二郎 , 1937; 日本直翅類学会 (編), 2006.

（執筆者 : 伊藤元・高橋耕司）

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は次の文献に準拠した。
日本直翅類学会（編）, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑 . 北海道大学出版会 . xxxvi + 687 pp.

【留意種とした理由】

和名	備考
ヒメスズ	深い森の林床に棲む種であり、特に照葉樹林に多い。本種の存在は状態の良好な森の指標となる。
イソカネタタキ	海岸性で、ハチジョウススキの茂みや、ハマユウ・トベラ等の葉の間などにいる。生息地がもともと狭いうえ、道路、港、護岸等により失われやすいことから留意が必要である。

【関連文献】

朝比奈正二郎・梅谷献二 , 1955. 伊豆青ヶ島の昆虫 . 資源科学研究所彙報 , 38: 153-156.
江崎逸郎・篠木秀紀・穴原美奈・藤原希 , 2009. 三宅島の生物季節 -2008 年 4 月～ 2009 年 3 月 -. *Miyakensis*, 12: 103-111.
Furukawa, H., 1938. Orthoptera of Miyake-zima, Izu. *Annotationes zoologicae Japonenses*, 17(3/4): 548-562.
Furukawa, H., 1962. Orthoptera of Hachijyo I. excluding Tettigonidae, Gryllidae, Gryllotalpidae and Phasmida. *Bulletin of Tokyo Gakugei University,* (13): 175-179.
八丈ビジターセンター , 2007. 八丈島の直翅類 . こっこめ通信 , 2007 年 11 月号 : 2-3.
Ichikawa,A.,2001. Japanese Stenopelmatidae with notes on some species. *Tettigonia*, 3:69-74.
加納康嗣・冨永修・田畑郁夫・別府隆守・石川均・村井貴史・三時輝久・河北均・豊嶋弘・高橋耕司 , 1999. 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目，キリギリス科，ヒメツユムシ亜科). *Tettigonia*, 1(2): 1-81.
加納康嗣・冨永修 , 1988. 日本のコバネササキリモドキ属の既知種と 2 新種 . 越佐昆虫同好会会報 , (65): 3-13.
正木十二郎 , 1937. 八丈島昆虫採集記 . 越ケ谷博物学会々報 , 2(3/4): 205-218.
村井貴史・伊藤ふくお , 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑 . 北海道大学出版会 . 450 pp.
日本直翅類学会（編）, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑 . 北海道大学出版会 . xxxvi + 687 pp.
大野正男 , 1994. 昆虫類 . In: 八丈島自然公園内環境基礎調査報告書 , pp. 263-307. (財) 国立公園協会 .
Shiraki, T., 1907. Die Tettigiden Japans. *Transactions of the Sapporo Natural History Society,* 1(2): 157-167.
高橋耕司 , 1992. 伊豆諸島の直翅系昆虫について . ばったりぎす , (96): 55-62.
東京都 , 2005. 事後調査報告書 (工事完了後 その 3)―神津島空港整備事業―. 東京都 . 110 pp.
東京都環境保全局 , 1998. 東京都の保護上重要な野生生物種 . 東京都環境保全局 .
東京都港湾局 (編), 1988. 事後調査報告書 [工事完了後その 1]―新島空港整備事業―. 東京都港湾局離島港湾部 . 39 pp.
和田一郎 , 1991. 神津島 (伊豆七島) でヒサゴクサキリを採集 . ばったりぎす , (89): 25.
和田一郎 , 2001. 伊豆大島にエンマコオロギはいるか？. ばったりぎす , (126): 19-22.
渡辺泰明 , 1963. 鳥島の昆虫相 . 南鳥島・鳥島の気象累年報および調査報告 , pp. 169-174. 図版 1 ～ 3. 気象庁 .
渡辺泰明・相馬州彦 , 1972. 三宅島の昆虫相 . 農学集報 , 17(1): 1-58.
山本和夫 , 1996. 昆虫類目録 . In: 新島村 (編). 新島村史 資料編 I 別冊 動植物目録・自然関係資料 , pp. 61-81. 新島村 .
山本裕 , 1997. 三宅島の昆虫の観察記録 - その 1-. *Miyakensis*, 4: 67-74.